

令和3年度第3回亀岡市環境基本計画推進会議

- 開催日時 令和3年10月14日(木) 午後2時00分～午後4時30分
- 開催場所 亀岡市役所 別館3階 会議室
- 出席者 田部会長、加藤副会長、芦刈委員、山脇委員、荒木委員、山内委員、井上委員、奥村委員、三間委員、兒嶋委員、村山委員、中川委員、川口委員、太田委員、多胡委員、高橋委員、山内幹事(事務局5名)
- 欠席者 豊田委員、原田委員

1 会長挨拶

2 協議事項

- (1) 第11期亀岡市循環型社会推進審議会委員の推薦について

村山委員が立候補、同委員を推薦することで一致

- (2) 第3次亀岡市環境基本計画素案について

○表紙

主な意見
計画表紙に目指すべき環境像のフレーズや、計画の愛称みたいなものを表記してどうか。

○第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の背景・経緯

主な意見
計画策定の背景・経緯について、世界や国の記載の前に、亀岡におけるポイ捨て条例やレジ袋の条例の効果などを記載した方が伝わりやすいのではないかと思う。

○第2章 亀岡市の現状及び課題

1 亀岡市の現状

意見・質問	回答
「1 亀岡市の現状」の降水量をみると、令和元年度が大きく減っている。令和2年度は更に減っているのではないかなと思う。今年や今後も影響するのではないかな。	降水量の最新数値は、令和元年度となっており、令和2年度については、調べられる範囲で精査したい。
「1 亀岡市の現状」の各グラフの数値の年度が様々であり、統一したほうがいいのではないかな。	引用している統計書等にもよるが、最終的にはできる限り直近の内容を掲載したい。
外国人人口の数値には、国際結婚で日本人と結婚された子どもが日本国籍を取得した場合や帰化した場合は含まれていない。そのような外国につながる人となれば、1,300人くらいになると思う。計画では、「外国人」という表現ではなくて、「外国につながる人々」という表現がいいのではないかな。	御指摘のグラフについては、住民基本台帳に基づく数値であり、計画に掲載するものは一定の根拠がある数値を挙げざるを得ないと考えている。 計画書中の表現については、御指摘を踏まえて検討したい。
市内の降水量であるが、市内といっても西部地域では降っていても、川東地域では全く降っていないこともある。降水量はどの辺りのデータを利用しているのか。	亀岡市の気象情報としては、亀岡市消防署にある雨量計データを使用している。

2 アンケート結果からみる状況

意見・質問	回答
アンケート結果について、アンケートがいつ・どこで・どのように・どれだけの人に採ったのか載せるべき。	アンケートの調査方法、実施期間、対象者数などについて記載する。

3 亀岡市の環境をめぐる特徴と課題

主な意見
アンケート結果からの現状は記載されているが、市民・事業所にとっての課題について記載がされていない。施策展開とのつながりにも関係するので、何が課題であるかの記載は必要である。

○第3章 亀岡市の目指すべき方向性

1 目指すべき環境像

意見・質問	回答
<p>「亀岡ブランドの創造・発信」という新たな概念が入ってきており、ただ単に環境というと汚染を防止するイメージがあるが、亀岡の環境を保全しながら農業や観光分野、更には新たな分野に役立てて創造発信する意味では、これまでの環境基本計画にない非常に意欲的な視点だと思うので、もう少し大胆にクローズアップした方が良いのではないか。</p>	<p>亀岡ブランドの創造・発信はこの計画の特色になると思われ、目指していく姿などをまとめていきたい。</p>

2 施策の方向性及び体系

主な意見
<p>A3の体系図については、ピンク色の方が見ようかなという気持ちになると思う。ただ、重点目標の並びが不規則で、数字もローマ数字となっているので、時計回りに配置するとか、数字は誰でもわかる算用数字の方が良いのではないと思う。</p>
<p>重点Ⅰが最も重要なことから、重点目標の中でも一番高いところに位置付けるべきだと思う。また、重点Ⅰと脱炭素化の推進、重点Ⅱと資源循環型社会の形成というように、重点目標と個別目標で関連のある目標は同じ位置に並べたほうが、計画を見る方の混乱にならないのではないか。</p>
<p>施策の方向性及び体系について、6つの個別目標と5つの重点目標とあるが、6つの個別目標のうち5つが重点目標のように思えてしまう。あくまでも「目標」とするのは5つの重点目標に言い切るほうが分かりやすいのではないか。</p> <p>個別目標は施策の分野を示していると思うが、あえて体系図の中に組み込まなければ分からないというものでないのではないか。むしろ6つの個別目標と5つの重点目標が両方あると分かり難いのではないか。</p>
<p>体系図のイラストについて、「亀岡ブランドの創造・発信」がなぜグラフなのか。「環境意識の普及啓発」がなぜ牛なのか。「脱炭素化の推進」に風車があるが、亀岡市では風力発電はおこなっていないので、亀岡の取組に関連するイラストを使う方が大事だと思う。亀岡市の観光マスコットキャラクターの明智かめまるのイラストを使ってもいいのではないか。</p>
<p>体系図の「脱炭素化の推進」のイラストについて、今後、亀岡市が風力発電に取り組まれるものと認識していたため、取り組む予定があればそのままいいと思う。</p>
<p>体系図の中心に市民・事業者・行政が平面的に並べられているが、ベン図で表現してはどうか。</p>

<p>24 頁の施策体系図と A3 の体系図ではレイアウトが異なっているし、細かな文字よりも A3 にするほうが良いと思う。</p>
<p>25 頁の分類・施策一覧に対応する具体的な施策の頁数が記載してあれば、具体的にどんなことをやっているのかが一目瞭然で良いと思う。</p>
<p>A3 体系図にある個別目標のイラストと第 4 章の施策の展開にある個別目標のイラストが合っていない。SDGs のアイコンのように、体系図と施策の展開のイラストを統一することによって環境基本計画として具体的な施策が見える化でき、整合性が取れているものになるのではないか。</p>

○第 4 章 施策の展開

1 脱炭素化の推進

意見・質問	回答
<p>原子力発電所は、最後の廃棄までのコストを計算するとコストが高いと言われているが、太陽光パネルや蓄電池も廃棄までのコストを含めて計算をすべきである。原子力発電と同じようになってしまうのではないか。</p>	<p>以前より御意見をいただいているところであり、明確に回答できるものはないが、引き続き情報収集に努める。</p>
<p>脱炭素の推進では、本年 6 月に温暖化防止法が改正され、日本の自治体全てが 2050 年までに二酸化炭素ゼロに向けた施策を立てなければならない。26 頁の成果指標中、市内全体の温室効果ガス年間排出量の目標は、まだ計画が定まっていないので「減少」となっているが、10 年後にどの程度削減するかを示せないようでは苦しいのではないか。</p>	<p>CO₂ の排出量を減少させていくことに間違いはないが、環境基本計画を先に策定することとなるため、具体的数値の記載が難しくなっている。</p>
<p>成果指標に「つる性植物の配布」とあるが、園芸とかに疎い人なら芽とか苗を渡されても、どうしたらいいのかわからないのではないか。また、「成長記録の掲載回数」とあるが、現状は 5 回／年とかいてあるが、令和 2 年度のつる性植物の配布は未実施となっているので、掲載回数も未実施となるのではないか。</p>	<p>御指摘のとおり、育て方が分からなければ効果がない部分もある。小さな取組ではあるが、引き続き市ホームページで栽培記録を掲載し、つる性植物による緑のカーテンによって直射日光を遮ることによる省エネルギー対策について発信したい。</p>

<p>成果指標に「1日あたりのバス利用者数」とあるが、令和2年度から令和13年度で11人しか増加しないのであれば、施策として目標が達成されているのではないか。今後の方策では、公共交通へ移動手段を転換させるモーダルシフトの推進と書いてあるので、プラス11人という目標は弱腰すぎるのではないか。</p>	<p>数値上の伸びが11人となっているが、今後の人口減少社会を見込んだ上での数としている。</p>
<p>成果指標に「幹線道路網の整備推進」と「道路交通網の整備」とあるが、15頁の市民アンケートでは、交通の便利さで満足している方は8.4%しかおらず、不満、やや不満が過半数を超えている。亀岡は公共交通機関よりも家庭で複数台車を所有する地域だと思っており、そのような方が交通に不便と持っているということは、公共交通機関の充実の問題ではなく、普段使う生活道路や幹線道路を整備してほしいなどを訴えているのではないか。今後の方策の詰めが甘いのではないか。</p>	<p>亀岡市の地域特性からすると整備すべき道路は多くあると思われ、今後、改善が図れるよう道路担当課とも連携したい。</p>

<p>主な意見</p>	
<p>亀岡ふるさとエナジー(株)は、自治体新電力として亀岡市に利益還元をする背景があるが、アンケート結果の認知度では5%ほどとなっており、もっとPRしなければならない。</p>	
<p>26頁に、2050年までに市域の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すとし、かめおか脱炭素宣言をしているにも関わらず、目標値が「減少」では目標にならないし、重点目標にもならないと思う。</p>	
<p>市内全体の温室効果ガス年間排出量について、環境基本計画の策定後に次期亀岡市地球環境温暖化対策地域推進計画の策定となっているのであれば、次期計画で定めた数値目標を反映させれば良いと思う。</p>	
<p>亀岡ふるさとエナジー(株)は、亀岡市が半額出資している企業であるが、公的な計画に一企業の名称を入れるのは異例と思うし、馴染まないのではないか。地元の地産地消のエネルギー会社との連携を深めるとか、他の表現の方がいいのではないか。</p>	
<p>企業名について、具体的施策には、企業名なり、企業がイメージできる表現に変えて、具体的な会社を使って取り組むというような具体性を増すような関係になっていないとおかしいと思う。</p>	

<p>成果指標は、市役所の指標や市民全体に関わる指標が混在していて分かり難い。</p>
<p>「具体的施策とその内容」は、上の表の「今後の方策」と全く同じ書きぶりになっていて具体性が増していない。書きようがなければ、今後の方策の方向性に留めるなどの工夫が必要と思う。</p>
<p>V2H(Vehicle to Home)による実証実験を検討することはできないか。V2Hは電気自動車から家庭・事務所へ電気をやり取りする装置で、電気自動車のバッテリーで電気を自由にやり取りできる。電気自動車のバッテリー容量は通常の蓄電池よりも圧倒的に大きく、各自治体で盛んに電気をやり取りする実証実験がされている。V2Hは、ニチコン(株)が初めて技術を開発して日本の先頭を走っており、その会社が亀岡にあるのだから、市とニチコン(株)と相談して、未来を先んじて実験していけるかどうかの検討が必要ではないか。</p>
<p>亀岡クルベジファーマーズでは、クールベジタブルというカーボンマイナスが達成できる農法を行っている。炭を農地に埋めることで空気中の二酸化炭素を減少させるもので、亀岡では10年ほど行っているが、これまでは具体的な削減数値が出せなかった。昨年からは、日本バイオ炭普及会ができて日本のJクレジットに則った数値が出せるようになっており、認証を受けている炭を埋めると、計算上、これだけのカーボンマイナスが達成できたという証明書が出せるシステムが出来上がっている。また、クールベジタブルの野菜は、市内スーパーマーケット3店舗で販売しており、食べてもらうことでカーボンマイナスに貢献できることとなっている。</p>
<p>亀岡クルベジファーマーズでは、営農型太陽光発電の実証実験も行って5年目となる。農地は日光が非常に当たるので太陽光発電の条件に適している面もあるので、農家組合や農業の団体が出資して農地に太陽光発電を作り、その電気を亀岡ふるさとエナジー(株)が販売すれば、エネルギーの地産地消につながる。10年後に向けて積極的に取り組むべきである。</p>

2 資源循環型社会の形成

意見・質問	回答
<p>亀岡市のごみの減量については、かなり減量が進んできたと思っているが、現在は、南丹市のごみを受け入れている状況にある。そのことについて計画には何も記載されていないので記載すべきだと思う。</p>	<p>現在、亀岡市のし尿・浄化槽の処理と燃えるごみの処理を交換しながら処理を進めている現状となっている。今後、いつまで実施するのかも今後の検討課題となっているところであり、現在の状況を含め、将来的に削減などを目指すのであれば明記が必要であると思うが、計画に盛り込むか否かも含めて検討したい。</p>
<p>成果指標には、中間処理施設について何らかの項目は入ってくるのか。</p>	<p>今後、精査して上で検討したい。</p>

<p>コロナ禍で家庭で過ごす時間が長くなり、コンポストを使われる方がすごく増えてブームになっており、計画では「有機性廃棄物の堆肥化」に近いと思うが、ここでは、落ち葉や剪定枝となっている。家庭の生ごみを家庭で処理できれば資源循環に即していることだと思う。生ごみのほとんどは水分なので、焼却炉で焼くには多くのエネルギーを使用するので、脱炭素化の推進にもつながるかと思う。コンポストは各家庭では小さい話であるが、全国に広がれば大きな流れになっていくと思う。日本では生ごみは燃やすことが当たり前と思われるが、海外ではごみを燃やすことが日本に比べて少ないと聞いている。今後、日本も生ごみを資源化して土に還して循環していくことをもっと打ち出すべき。亀岡市も環境に重きを置くのであれば、コンポストなど生ごみを循環させていくほうに力を入れるべきでないかと思う。ここの堆肥化についてももう少し膨らませられないかと思う。</p>	<p>今後、ごみの概念を変えることが必要となってくる中で、生ごみはごみでないというところは非常に重要な取組になると考えている。</p>
--	---

<p>主な意見</p>
<p>亀岡市プラスチックごみゼロ宣言のようなシンボルマークがあれば、プラスチックを無くすアピールになるのではないか。</p>
<p>40 頁の「②ゼロエミッション計画の推進」の「今後の方策」で、市施設におけるOA 用紙や封筒の再利用をするなどとしてゼロエミッションに取り組むとあるが、これは昔から取り組まれているものでいかにも古い。例えば、一步踏み込んでペーパーレス化を目指すなどの検討をしてはどうか。</p>
<p>プラスチックごみ対策の海洋ごみ・河川ごみの部分では、保津川の清掃しか書かれていない部分もあり、海洋ごみとのすみわけが必要ではないかと思う。資源循環型社会となればもっと全体的な話になるので、その辺りのすみわけも必要だと思う。</p>

3 生活環境の保全

主な意見
<p>47 頁の成果指標「大気検査結果の達成率」について、京都府では法律に基づいて大気汚染の常時監視を 24 時間 1 年中実施しているが、令和 2 年度の実績が 80%となっている。光化学オキシダントには非常に厳しい基準値として評価方法も 1 時間の値がその値超えると未達成となる状態であり、光化学オキシダント濃度は年々上昇しているのが実態である。環境省でも評価方法の見直しの話があったりするが、令和 13 年度までに見直されることが見えない中で 100%の目標達成は無理があると思う。ここは現状維持として、残りの項目は全部達成しているということで 80%を掲げられてはどうかと思う。</p>
<p>市議会でも指摘があったと思うが、市有地に不法駐車されている自動車があるとの話があったので、不法駐車に対する何らかの検討について記載できないか。</p>

4 亀岡ブランドの創造・発信

意見・質問	回答
<p>65 頁の環境配慮型の新たな創業支援にフライバッグを絡められているが、最近ではイベント等で使い捨て食器を使用しないように、プラスチックなどの食器でリユース食器を貸し出している業態が出てきており、亀岡市内では亀岡給食センターが取り組んでいる。リユース食器の利用によってプラスチックごみの削減にも大きく効果があると思うので、亀岡市としてもリユース食器の普及について取り組んではどうか。</p>	<p>亀岡市では、市内で開催されるイベントにおいて、100 個以上のリユース食器が使われる場合は、リユース食器に係る経費について 3 分の 2 を補助していることから、亀岡市の独自色として計画に盛り込みたい。</p>
<p>61 頁にあるフライバッグについて、以前、霧の芸術祭等でフライバッグの啓発事業をしていたと思うが、今後も継続するのか。また、以前に環境の啓発等のフェスティバルも開催されていたが、今後は開催するのか。</p>	<p>JR 亀岡駅北口で行った巨大なバッグを吊るすイベントや環境フェスティバルについては一定の役目を終えたものと認識しており同様のイベントを開催する予定はないが、他の様々なイベント等に出店するなどして継続的に環境に関する啓発を行うこととしている。</p>

<p>フライバッグはどこで売っているのか。</p>	<p>市内では千歳町の KIRICAFE で販売している。制作は東京のシアタープロダクツが行っていることからインターネット等でも販売している。</p>
<p>フライバックは東京で作られているのか。亀岡の企業は作らないのか。生地も亀岡で作られていないのであれば、亀岡ブランドと言っているのか。</p>	<p>当初、プラスチックごみゼロ宣言に取り組んでいく中で、亀岡はパラグライダーのメッカで、使用されるパラグライダーの耐用年数が過ぎると廃棄処分されている現状があり、何かできないかとのことで、東京のシアタープロダクツのデザイナーの方に共感をいただき発信したのが始まりである。生地自体は亀岡で解体し、制作は東京で行っている。</p>
<p>KIRICAFE の隣の千手庵でパラグライダーなどの生地を解体して、フライバッグの生地を作っているが、亀岡で作ったことにならないのか。</p>	<p>亀岡のパラグライダースクールから集まった廃棄生地を亀岡の中で解体・整形して東京のシアタープロダクツに出荷することをまちの仕事として、千歳町の千手庵で一般社団法人きりぶえという団体が請け負っている。最終的には東京で商品化されるが、素材提供は亀岡から発信していることから亀岡ブランドと考えている。</p>

<p>主な意見</p>	
<p>計画では、企業名、NPO 団体名などの固有名詞が出てくるが、10 年後に事業がどうのようになっているかも分からない。判断基準がすごく難しいと思うが、その辺りも含めて考慮してほしい。</p>	

5 環境意識の普及啓発

意見・質問	回答
<p>74 頁の具体的施策とその内容では、各企業と連携されているとは思いますが、市内の福祉施設等も環境の取組をされているので、環境の取組の一環として連携できるのか検討してほしい。</p>	<p>今後、様々なところ連携を進めていきたいと考えているが、どこまで個々に記載するかについては検討したい。</p>

<p>市内中心部から離れたところに住んでいるものは、市道・府道の草も自主的に刈っているが、中心部に行くと草が生えてしても知らん顔である場面を見受ける。エコウォーカーを作らなくても、自分の家の前や向こう三軒両隣は自分たちできれいにしようという意識を啓発すればいいのではないかと。税金で草刈りをするようなことがなくなれば、市の財政も助かるのではないと思う。</p>	<p>今後も、自分たちのまちは自分たちできれいにするという呼びかけを続けたい。</p>
--	---

<p>主な意見</p>	
<p>77 頁「(5) 多文化コミュニティネットワークの構築」の「現状と課題」と「今後の方策」を見ていると、「外国人住民」や「在住外国人向け」という表現になっているが、「具体的施策とその内容」の「かめおか多文化共生センターとの連携と活用」では「外国につながる人々の生活相談への対応に際し」と表現されているので、「外国につながる人々」に統一したほうが良いと思う。</p>	

6 自然との共生

意見・質問	回答
<p>アユモドキについて記載されているが、今後 10 年でアユモドキのように少なくなると、保全しなければならない対象になり得る生物が発生する可能性はないのか。今後、そういったことを含めた計画にした方がいいのではないかと。</p>	<p>現在は、アユモドキのみとなっているが、絶滅危惧種やレッドブックに掲載されている生物で亀岡市として保全を図っていく必要がある生物については明記していきたい。</p>

<p>主な意見</p>	
<p>81 頁の「③身近な生物の生息環境の保全」ではシカ・イノシシなどの有害鳥獣駆除の記載があるが、89 頁の「(4) 農地の保全」の「④有害鳥獣対策」と全く同じであり、内容からすれば農地の保全でいいのではないかと。また、80 頁の「①外来生物対策」のアライグマ、ヌートリアなどについても、外来種の増加によって、タヌキとの生息環境の競合、ヌートリアによる水辺動植物が荒らされるなど、生物多様性の保全とは無関係とまでは言えないが、これらも農地の保全でいいのではないかと。</p>	

○第5章 重点戦略の設定

意見・質問	回答
脱炭素ロードマップの中で環境省が求めているポジティブゾーニングへの参加について、この場でやることではないのかもしれないが、決まっているスケジュールなどはあるのか。	ポジティブゾーニング促進区域の設定については、本年12月頃に国がガイドブックを示す予定である。年明けに説明会があると思われ、その中で具体的な市町村の動きが示されるものと考えている。

主な意見
地球温暖化防止の地域計画を策定するとあるが、いつ策定するかを明記したほうがインパクトのある計画になるのではないかと思う。

○第6章 計画の推進に向けて

主な意見
99頁にPDCAサイクルの図があるが、PDCAサイクルに沿って計画を進めていくことが文章から読み取れないので、明記したほうが良いと思う。

3 閉会